

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第347回

『大沢たかお』

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和5年3月8日

編集委員：入試広報室 鈴木



今回の言葉

若手、ベテランという括りは
関係なく、映画の成功のために、
みんな同じ土俵で戦うという
意識がないといけない。

大沢 たかおは、日本の俳優、歌手。東京都出身。コアインターナショナル所属。

Column

この言葉に出会った時に“この意識は映画の世界だけではない。特別な世界にのみ必要とされる意識（他人事）だと考えてはいけない”と感じました。私たちが暮らしている社会は形や文化を変え、世界中のありとあらゆるところに存在しその中で、それぞれがそれぞれの社会の一員として自分の人生を歩きながらその社会を支えています。不必要な人も価値のない人も一人もいません。それぞれがかけがえのない人だと信じています。私の中では学校も小さいながらもひとつの社会だと捉えています。また、自分たちで作り上げる社会だと思っています。今回の言葉を正智深谷高校というひとつの社会に当てはめると“若手”は生徒であるみなさんと、“ベテラン”は先生方だと思います。“映画の成功”は、高校生活における目標達成ではないでしょうか。みなさんが掲げる目標はひとつだけではないと思いますが、今回は『希望の進学先に合格する』ということにします。そのためには試験でベストを尽くすことができる学力やメンタルを鍛えることが重要です。そのためには高い集中力の中で展開される授業を重ねることが重要です。そのためには事前事後の自主学習が重要になってくるでしょう。このように文字にしてみると『めっちゃ大変だな…』と思うかもしれませんが、しかし、これは自分でできる自分への最高のご褒美と言っても過言ではない“達成感”を得られる大切な準備だと思います。そして、先に述べたようにこの社会において必要ない人なんて誰一人としていません。そういう意味では役目が何一つないという人もいないのです。『あくまでも自分のために頑張っていて、人のために何かをしているわけではないのにそれでも社会への役目と言えるの？』と思うかもしれませんが、私の中では自分のために頑張っていることでも自分の中だけで完結するものはないと思っています。自分が努力して得た知識は何らかの形で発揮され、誰かの元に伝わります。知識だけではありません。愛情などの『心』もです。大きさに個人差はあっても大沢さんの言うように『意識』があるかないかは大きな違いです。『この社会に生きる意識』を大切にしていきましょう！